

授業科目: アジア文化論II 演習  
授業題目: インドネシア文化論演習(6092)  
共通科目: 専修専門科目地域国際コース(7237)  
教室: 425. 日時: 月曜・5限  
担当教官: 青山 亨(あおやま とおる). 東京外国語大学外国語学部インドネシア語  
電話 042-330-5300. メール <taoyama@tufs.ac.jp> 研究室633. オフィスアワー 月曜日2限  
ウェブサイト:<<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/aoyama/>>  
授業のお知らせ:<<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/aoyama/>>



## 1. 授業のねらい

この演習は、広くインドネシアの社会、文化、歴史について、来年度4年次に卒業論文を執筆または卒業研究を実施する者を対象とする。インドネシアに関する文献の講読を通じて、インドネシア文化に対する理解を深めるとともに、卒業論文の執筆(卒業研究の実施)に向けての準備を整える。卒論・卒研には下記の例のように幅広いテーマが取り上げられてきている。受講者は「東南アジア地域文化論」講義を履修済みであることが望ましい。

## 2. 卒業論文・卒業研究題目の例

- ・別紙参照

## 3. 演習の具体的方法

授業は講読と研究発表の二本立てです。講読では基本的な研究書・論文を読むことによって、インドネシア研究に関わる基本的な概念の理解を深める。研究発表においては、自分で選んだテーマによる口頭発表と全体討論を通じて、資料の収集・分析、発表、討論の方法を学ぶ。

テキストは、参加者のレベルを配慮しつつインドネシア語・英語・日本語のテキストを適宜選んで読む。また、あわせて(並行してもしくは時期を変えて)、学生自身のテーマによる研究報告と全体討論もおこない、卒論・卒研の作成に向けての指導をおこなう。レポートの提出(年2回程度)、最低1回の口頭発表、質疑への積極的な参加(出席が前提)が評価の対象となる。

## 4. 達成目標

- 1) インドネシア研究に関わる基本的な概念を理解し、自らの研究に応用することができる。
- 2) 4年次の卒業論文・卒業研究のテーマを設定し、テーマに関わる資料の概要を把握している。
- 3) 自らテーマを設定し、資料を収集・分析し、創意のある論理的結論を導くことができる。
- 4) パソコンを活用した文献探索・文献目録作成、プレゼンテーション、レポート・論文の作成をおこなうことができる。
- 5) 口頭発表をおこない自らの論旨を説得的に伝達し、討論に積極的に参加(発表者・聴衆いずれもの立場で)することができる。

## 5. 成績評価

授業への出席(10%)、ゼミでの発表(30%)、レポートの内容(60%)で評価する

## 6. 講読テキスト

テキストは受講生と相談して決める。取り上げる概念もしくは領域としてはたとえば次のような候補を考えている。順不同:

社会: 「想像の共同体」(アンダーソン)、国民国家の装置: 国家、国旗、国歌など。民族主義。

文化: クバティナン、ワヤン、エスニシティ、イスラーム、地方文化: ジャワ、バリ、トラジャ、ミナンカバウ。古典文芸、近代文学、大衆文化、観光と開発、ジェンダー。

歴史: 「(アジアにおける)交易の時代」(リード)、「劇場国家」(ギアツ)、「文化的インヴェンション」(ギアツ)、「マンダラ国家」(ウォルターズ)。